

話心

第11回



時には腹立つこともあるけど、やっぱり家族は大事、と改めて思ったお盆の出来事。

今年の夏、同級生のTちゃんから電話があった。中洲のクラブで酒乱の店長、独身で住まいはクラブセルホテル、身軽で自由奔放な生活の人生なかなかロククな奴…

「ちよっと相談があるんだけど…」

「金か?」

「いや、そんなんじゃないよ、実は…俺の両親を探してくれんか?…」

「はあ?」。

聞けば、彼は十八歳の時に実家を出てから一度も帰らず、その間に両親は離婚、姉弟とも全く連絡が取れないとのこと。生きていれば八十歳くらい、本人も五十歳近くになって、もう一度会いたいと思うが以前の実家にはもう誰も住んでおらず探しようがないのだとか。すぐにパソコンに向かいTちゃんから聞いた家族全員の名前で検索するがなかなかヒットしない、同姓同名の別人や年齢的に合致しない人等を除外しながら探していると彼の

お盆に人探し、ご先祖様は大喜び

弟と同じ名前を某SNSで発見。珍しい名前だったので思い切った事情を説明する内容のメッセージを送るが音沙汰なし。次は電話作戦、親父さんの実家の町名を聞いていたのでその町内の知り合いに「〇〇さんっていう人を知らないか? 同年代の人に聞いてみて」とお願いしたが見つからず。あとは何か方法はなにかと考えて「やっぱ最後は行政頼みか…」と地元市役所勤務の友人に電話して聞いてみると

「本人が写真付きの身分証明証を持ってきてくれれば何とかかな」と思うよ」

と教えてくれた。すぐTちゃんに電話して

「何か身分証明になるものあるか? 免許証くらいあるやる?」

「昔、取り消しになって…持たん」

「パスポートは?」

「期限切れで捨てた…」

「おめえ、どれだけ自由なんだよ?」

この夏、Tちゃんは三十年ぶりに帰省した、保険証でなんとか手続きが出来、現在父親は静岡県内に住んでいることがわかったのが八月十五日だった。その夜は彼と二人、地元の居酒屋で静かに祝杯を挙げた。



住職 松竹正純 さん = 文
(まつたけしょうじゅん)

- 昭和44年 大阪府堺市生まれ
- 大黒山徳性寺住職 (雲仙市)
- 23歳で、北米大陸をオートバイで縦断。
- 様々な職業を経て、28歳で出家得度。